



Well-being

児童生徒・教職員・地域みんなの幸せのために

- 魅力ある学校づくり
- 生徒支援の充実
- 地域との連携の充実

令和7年度 水戸教育事務所管内 第1回教育支援センター等連絡協議会

期日：令和7年6月19日（木）
時間：午前9：30～11：50
場所：茨城県水戸合同庁舎5階厚生室

水戸教育事務所では、2014年度（平成26年度）に「茨城大学戦略的地域連携プロジェクト」として茨城大学と連携して不登校児童生徒支援事業「ほっとステーション活動」をスタートさせました。趣旨は、長期欠席児童生徒と保護者に対して、大学の専門性、青少年教育施設がもつ機能、地域のボランティア力等の連携により、適応指導教室等在籍の児童生徒等に様々な体験活動や保護者に対するカウンセリング等の機会を提供し、子供と保護者の安定を図ることで不登校改善の一助となることを目指すものであります。長期欠席児童生徒と保護者が共に活動する参加体験型の学習プログラムを年間5回（一泊二日を含む）開催しました。

2015年度（平成27年度）には、水戸教育事務所管内適応指導教室等連絡協議会を年2回開催し、「ほっとステーション活動」周知と報告を含めた内容として、不登校改善に取り組みました。不登校の問題を単に学校教育の課題とするだけでなく、ひきこもりの問題との関連を含めた社会教育課題に、学校教育課内に指導主事と社会教育主事が在籍する事務所として独自の事業として展開しました。

2025年度（令和7年度）より「適応指導教室等連絡協議会」については「教育支援センター等連絡協議会」と名称を変更しました。



小鷹 氏による講話

する事業や専門機関の紹介もいただきました。

今年度、第1回目は、各市町村の参加者と学校教育課の職員でグループ編成によるグループ別情報交換会を「教育支援センター等の現状と課題について」をテーマに行い、その後に「ひきこもり者の居場所づくり」について認定NPO法人茨城NPOセンター・コモズ理事、グッジョブセンターみとセンター長の小鷹美代子氏からご講話をいただきました。「ひきこもり」について法整備や対応に関しての現代までの流れを丁寧に説明いただきました。「不登校児童・生徒」と「ひきこもり者」の関連についてもデータをもとにしたお話をいただきました。さらに、小・中学生も対象とする

「ふりかえり」と称して茨城大学教育学野教授の三輪壽二氏より今回の協議会について総括していただきました。第2回の連絡協議会に向けた方向性についての示唆をいただき、不登校の問題、ひきこもりの問題等への対応する者として、今後の教育支援センター等の在り方や役割について考えさせられました。

半日の開催でしたが、参加された皆様により内容の濃い協議会とすることができました。

各学校におかれましても専門機関と連携することにより不登校の

問題への対応の取組の一助としていきたいものです。子供たちのために連携・協働して持続可能な取り組みにしていきたいと思います。

